



教会



・教会建築が美しい。ウクライナ正教（キリスト教の一派）のものが多い。
 ・右上はプロテスタント（ドイツ系）の教会。その境内にある異国的な建物は「いかにもソ連」
 ・東方（ビザンツ/ロシア）的なものと西歐的なもの。また、独特な建築・異文化間の交流的なものが点在している

オデッサ/Одеса/Одесса

- ・人口100万人（ウクライナ第3）
- ・ロシア帝国第4の街（19世紀中ごろ）
- ・「黒海の真珠」
- ・2023年1月、世界文化遺産に登録

7/19 国際理解講演会を実施しました！

7月19日（水）3, 4時間目に、和田達朗さんをお招きして国際理解講演会を実施しました。和田さんはロシア語やロシア文学を大学で勉強した後、ロシアでの勤務等を経て、配偶者の故郷であるウクライナのオデーサで暮らしていましたが、2022年2月のロシアによる侵攻を受け、配偶者と3歳の息子さんと共に日本に避難してきました。講演会では、侵攻前の美しいオデーサの風景や郊外の別荘での穏やかな暮らしの様子を紹介していただいた後、侵攻直後の様子や「避難民」として見た日本の様子など、「一生活者」として見た現在のウクライナの様子や戦時下の生活について語っていただきました。

生徒の皆さんからも現在のウクライナの生活の様子や、戦争が始まってからの報道の在り方、高校生として自分たちにできることはどのようなことか、など様々な質問がたくさん出て、和田さんからさらに幅広い話題について伺うことができました。講演会が終了した後も和田さんのところには多くの生徒が質問に訪れており、桜修館生が世界について様々な観点からの関心を抱いていることが改めて伝わってきました。

今回の講演会のお話をきっかけに、国際的な問題を「生活者の視点」から見て、自分事として考え、行動につなげていって欲しいと思います。

参加生徒の感想

■ウクライナに住んでいた人の現地での暮らしぶりを聞いて、ウクライナ侵攻の実感がよりわいてきて、「戦争は現在進行形の生活の破壊である」と和田さんが最初におっしゃっていたことが良く分かった。またウクライナの人のうち70%が侵攻後も幸せを感じているというのを聞いて、今の日本では到底70%もいかないと思うから、何が違うのか知りたいと思った。共生のためにはウクライナ人（ロシア人）であることがその人のすべてではないということに、当たり前だけど自分をステレオタイプに当てはめて考えていたのだと思った。最後におっしゃっていた「情報は現実を語り、現実を作り出す」という言葉には本当に納得したし、メディアはその責任を重く噛みしめながら報道すべきだと思った。（4年生）

■戦争に巻き込まれてしまったウクライナの方々に対する支援の在り方について考えさせられた。今までは当事者の方々とは程遠い大きな組織視点（国など）しか知らなかったのが、彼らに思いのこもった物を贈るなど、つながっていることを伝えることの方が重要なことも学んだ。だから今回の講義のようにウクライナについて、市民の声について知ることも意味があると思った。これからはただ助けたいと思うだけでは漠然としすぎて実行できなくなってしまうので、様々な機関や国、人々からの情報をなるべく多く受け取る努力をして、自分の考えを持つことから始めたいと思う。ウクライナの方々には理不尽な状況に心を壊さずに過ごして欲しいと強く思う。（4年生）

■和田さんの講演を聞いて、改めてウクライナの人々にも大切な日常があって、突然その日々が奪われたという悲惨さが伝わってきた。話の中で一番印象に残ったのは、戦争と幸せは交じり合うという言葉と、戦時中に今あなたは幸せですか？という問いに対して7割の人が「はい」と答えたということだ。もちろん戦争は暗いニュースであるが、ただその侵攻を受けている国の人というだけで辛いだけではなく、その非日常の中でもそれぞれが一所懸命に生きて幸せを感じていることを知った。その上で他人事のように「かわいそう」などと距離を置くのではなく、寄り添い、知ろうと動くことが大切だと思った。また和田さんのお話を聞いて初めて具体的に日本に避難してきたウクライナ人の実態を知った。保証人の制度で来ている人は自分と同じくらいの年齢で、母国は戦争中で知らない国に、親元を離れて来るということを考えたら不安でたまらなく心が痛んだ。何か自分にできることを行動に移せるようにしたい。（4年生）

■私は初めにおっしゃっていた“生活の破壊”という言葉が最も印象に残っている。普段メディアで見る時はどちらかというと政治面に近く、教科書的な印象がしてあまり自分がこうやって過ごしている同じときに行われていることだという実感がなかったが、お話の中で、“よく行っていた”や、“隣の村”など、和田さん自身の生活のとても近いところに戦禍が迫っていたというお話や、ウクライナ侵攻が始まる前の写真を拝見して、当たり前の生活がいとも簡単に壊されてしまうことに衝撃を受けた。また私の戦争のイメージが日本の戦時中のイメージで、教科書で習ったものという印象が強かったので、アンケートをはじめとした今の様子にギャップがあり驚いた。今回貴重なお話を聞いてウクライナの方々の暮らしやウクライナ侵攻について大きく印象が変わった。（5年生）

■今回は貴重なお話をありがとうございます。ご講演を聴いて、自分はまだロシア・ウクライナ戦争について知らないのだと思いました。戦争はやめたほうがいいと口ではいくらでも言えますが、そう簡単に解決はできないと改めて感じました。だからこそ自分は知ることから始めなければならないと気づかされたので、もっとニュースを見るなど関心を持ちたいと思います。その時にはロシアあるいはウクライナの言っていることが本当に正しいのかどうか少し疑いの目をもって見たいです。今回は報道などでは分からない、現地の様子や避難してからの生活をお聞きでき、とても良い経験となりました。まだまだ苦しい状況下で被害に遭う人もいると考えると胸が痛みますが、現地の方々に声を届けるなど、これからも自分にできることを模索していきたいです。（5年生）